

## 結婚行進曲(The Wedding March)演奏の手引き

(文・アレンジャー 宮嶋みぎわ)

この曲は言わずと知れたメンデルスゾーン「結婚行進曲」のビッグバンドバージョンです。実際に結婚式やお祝いの席で演奏されることが多いのではないかと思いますので、そのような場を想定して演奏の手引きを記します。

### 曲の始まり

4小節+ピックアップ1小節のイントロが付いていますが、これは「結婚行進曲が始まるぞ」ということを、聴き手に知らせず、すっと始めたい場合に使用してください。逆に、華やかにいかにも結婚行進曲です!」と始めたい場合には、「A」の前に2小節分ドラムのフィル・イン(ドラムソロ)を付け「A」から華やかなフォルテで演奏してみてください。ぐっとゴージャスさが増します。

### 全体的に華やかにしたい場合は

同じく「F」からの後テーマも、華やかにしたい場合はフォルテで演奏しましょう。

### もう少ししっとりさせたい場合は

「A」も後テーマの「F」も、mfで演奏するように心がけてみてください。雰囲気にかかなりの違いが出ます。

### 新郎新婦の入場・退場で使いたい場合は

入場や退場で使う場合の曲の長さは、通常1分半から長くて2分ほどあれば十分と言われています。このアレンジの場合、ソロを完全に省いて「D」の1小節前まで演奏した後すぐに「F」に飛ぶと、ほぼその長さになります。もっと短くしたい場合は「A」の終わりまで演奏したら、いきなり「G」のエンディングに飛ぶことも出来ます。ややせかせかした展開になりますが、かなり短く出来るので時間調整したい場合にはお試してください。逆に長くしたい場合はソロの繰り返し回数で調整しましょう。

### サクソやトロンボーンのソリ

「A」の3小節目を皮切りに、この曲にはたくさんの短いソリのような部分が出てきます。短いソリの部分は、自分のセクションにスポットライトが当たっている気分で、指定の音量記号より少し大きめに、イントネーションも強め、はっきりめに演奏すると、パリっとした心地良いサウンドになります。

### 「C」は力まずに

「C」からの部分はどうしても「大きく吹こう」として力んでしまう箇所ですが、逆に力を抜いて「豊かな音で周囲の方とサウンドさせよう」という意図で音を出すようにすると、美しく豊かなハーモニーが楽しめます。特に「34」では、ふっと肩の力を抜いて一段階身体を緩めるようなイメージを持つと上手くサウンドしやすいでしょう。

### ソロは誰がとってもOKなようにアレンジしてあります

「D」からはソロです。ここではわざと全員の譜面にコード進行を記しています。誰でもソロが取れるように、また、何度でも繰り返せるように作ってありますので、自由にソリストを選んでください。

### 「E」からのソロバックिंगも、誰のソロにも対応できます

- 「E」からはソロの裏でバックिंगが始まりますが、この場所でも、どの楽器がソロを取って大丈夫です。
- Piano or Guitar/Bass/Drums/Trumpetが取る場合：譜面通りで大丈夫です
  - Saxが取る場合：バリトンサクソの音を省略し、残りの4声を残った4人で吹いてください。(つまり、もしAs1がソロを取る場合は、As3がAs1の譜面を吹き、Ts2がAs3の譜面を吹き、という具合に繰り返して吹いてください。)
  - Tbが取る場合：3rd Tromboneの音を省略し、残りの3声を残った3人で吹いてください。

### 「G」からはエンディングなので華やかに演奏しましょう

これも「C」と同じように、力まず豊かな音質で演奏することを心がけると素敵な演奏になります。

### エンドノートの前のピアノ or ギターソロ

エンドノート(最後の音)の1小節前に、ピアノ or ギターのソロのような fill のような箇所があります。ピアニストが担当する場合、これはカウント・ベイシーになったつもりで、かわいらしく、わざとスウィング感を深めに取ってキュートに弾いてみましょう。ギターの場合は、コードを付けて弾いた方がおしゃれになりますので試してみてください。

### エンドノートは大人っぽく mf で

一番最後の音は大人っぽく mf で終わるようにしてあります。結婚式等で使用する場合、ここで新郎新婦がお辞儀をすることになるので、あまり大きい音で演奏すると邪魔になるためです。暖かく優しい音で、お祝いの曲を締めくくりましょう。



## 宮嶋みぎわ (みやじま みぎわ)

ピアニスト、コンポーザー、アレンジャー

色彩感溢れる音使いと温かなハーモニーが生み出す感性豊かな楽曲と演奏で人気を集めている。

自身のビッグバンド「miggy+」、ボーカリストとの共演や少人数編成バンドMiggy-diminishなどでの演奏を中心に活動。7年半の会社員経験から、集団経営論やプレゼンテーションについて豊富な知識を持ち、それらを活用した斬新なレッスンも人気。数多くの学生・アマチュアミュージシャンと交流することに熱心に取り組んでおり、雑誌等での誌上クリニックも好評を集める。

2010年よりThad Jones=Mel Lewisバンドの後継者である米国NYのThe Vanguard Jazz Orchestra日本代理人に就任、音楽を通じた日米文化の橋渡しに奔走している。2011年、同バンドの新CD「Forever Lasting-Live in Tokyo」に副プロデューサー・アートディレクター・ゲストピアニストとして参加、同アルバムでグラミー賞にノミネート。2012年9月より文化庁新進芸術家海外研修制度の研修生、また日米政府による芸術家交換プログラムの派遣生として1年間ニューヨークに留学、Jim McNeelyより作曲とアレンジを学ぶ。

2008年モダン今夜：永山マキ、BE THE VOICE：和田純子、カセット・コンロス：ヤマカミヒトミと、ツインボーカルユニット「Lynn」にてアルバムを発売し、ビッグバンド「miggy+」でもオリジナル曲のみを収録したアルバム「IBUKI」をリリース。アレンジャー・作曲家としての活動の他、『前に進む力』（ダグラス・パーヴァイアンス、跡部徹共著 発行：ディスカヴァー21）コーディネーター、フリーペーパー「BIGBAND」でのCDレビュー、クリニックの司会・コーディネートと幅広い活動範囲を持つ逸材。